

# 晴れたらいいね

【被災農業者向け現地相談窓口】  
令和6年能登半島地震の被災農業者向けの  
現地相談窓口を設置し、相談対応をしています。

## 目次

### 特集 石川県創造的復興プランについて

P2

#### 現地ルポ

中能登、県央、南加賀

P4

#### いしかわのホットな 農業人

P8

#### 中央普及支援センターだより

P5

#### いしかわ 農業総合支援機構だより

P9

#### 行政情報

P6

#### 研究ノート

P10

本年1月に発生した令和6年能登半島地震は、輪島市や志賀町の最大震度7をはじめとして、県内各地で大きな揺れを観測し、甚大な被害をもたらしました。農業関係では、農地における亀裂や法面崩落をはじめ、農道、ため池、農業機械・施設などの破損、畜産関係では畜舎等の破損に加え、水・電気・飼料の確保が困難になるなど、多くの被害が発生しました。

被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

県では、能登半島地震からの創造的復興に向けた道筋を示すため、「石川県創造的復興プラン（以下、プラン）」を6月に策定しました。

「能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country」をスローガンに掲げ、能登が持つ自然や文化の普遍的な価値に新たな価値を融合し、全国そして世界から再び注目を集め、理想とされる能登の未来を創り上げることを目指します。そして、創造的復興を成し遂げるため、以下に示す「4つの施策の柱」と「創造的復興リーディングプロジェクト」に沿って、具体的取組を着実に進めていきます。

### 石川県創造的復興プラン 4つの施策の柱

- ①教訓を踏まえた災害に強い地域づくり
  - ②能登の特色ある生業（なりわい）の再建
  - ③暮らしとコミュニティの再建
  - ④誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり
- ※このうち、創造的復興の象徴的なプロジェクトを「創造的復興リーディングプロジェクト」と位置づけ

4つの施策の柱に沿った具体的取組は、プランの対象期間を令和14年度末までの9年間としたうえで、目標達成時期を「短期」「中期」「長期」（※）の3つに分けて「タイムライン」で進捗を管理します。なお、復旧・復興の過程では予期せぬ課題が発生することも想定されるため、プランは柔軟に更新・見直しを図ることとしております。

※短期（2年後のR7年度末）、中期（5年後のR10年度末）、長期（9年後のR14年度末）

石川県創造的復興プランの全文はこちら（県ホームページ）→



# 石川県創造的復興プラン（農林水産業関係 一部抜粋）

## <創造的復興リーディングプロジェクト>

### 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

- ・能登農林水産業ボランティアの実施

### トキが舞う能登の実現

- ・餌場の確保・営巣環境の整備
- ・トキをシンボルとした地域活性化、能登の農林水産物のブランド化



能登農林水産業ボランティアによる水路の泥上げ（能登町）

## <具体的取組>

農林水産関係施設の  
復旧・強靱化

生産性向上、  
生産維持・拡大

担い手の確保・  
育成・定着

農村コミュニティの  
維持・再生・強化

世界農業遺産の  
維持・継承

特色ある食材の  
価値向上・応援消費



白米千枚田のひび割れ（輪島市）



トキ

能登の農林水産業は、人口の1割が就業する重要な産業です。一方で、今回の地震により、地震前からの課題であった離農や荒廃農地の増加が加速することが懸念されています。まずは、早期営農再開に向け、農地や農畜産業用施設等の生産基盤の復旧を進めるとともに、生産性向上や県産食材の応援消費の促進、能登ブランドの価値向上等の取組を進めていきます。

農林水産業の復興なくして能登の復興はありません。県では、関係機関とともに、農家の皆さまに今後も意欲をもって営農していただけるよう、プランに基づき取組を進めてまいります。

お困りごとや、ご不安なことがありましたら、お近くの農林事務所や市町、農協等にご相談ください。復旧・復興に向けて、一歩ずつ、ともに進んでいきましょう。

農家の方に向けた支援策等についてはこちら→  
(県ホームページ)



農業者の方



畜産農家の方



農林水産業  
ボランティア

# 現地レポート

## 能登半島地震からの早期復旧・復興に向けた農業者現地相談窓口での取組について

中能登

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災された農業者が安心して営農を継続できるよう、2月19日に中能登農林管内ではJA能登わかばとJA志賀に農業者現地相談窓口を設置しました。

窓口では、県・中能登農林総合事務所、国、JAグループ、市町及び県外からの応援職員3～8名が交代制で、9時から17時の時間帯で対面や電話での相談を行っています。

窓口開設当初は多くの相談者が来所し、対応しきれず混乱することもありましたが、少しずつ窓口の体制を整えながら相談者に寄り添って申請書の作成支援や再建に向けたアドバイスを行っています。

相談の内容で最も多いのは施設と機械の修繕、再取得です。初回は被害状況の聞き取りや必要書類の内容を説明し、2回目は実際に準備してもらった申請書や見積書などを確認します。必要書類が揃うまで数回来所していただきながら、申請書を完成させます。格納庫が全壊し納めていた機械すべてが被災された方もお

り、甚大な被害であったことを目の当たりにしています。これまで窓口には多い日は21人が相談に訪れ、累計相談件数は、JA能登わかば679件、JA志賀403件（5月31日現在）となっています。

新規の相談者も続々と来所されています。引き続き関係機関と連携し、農業者に寄り添いながら、一歩ずつ復興に向けて取り組んでいきます。



被災農家の相談に応じる中能登農林総合事務所職員

## 「高松紋平柿」ブランド力向上の取組

～高級贈答品として県内外へ～

県央

紋平柿は、古くから宝達山系に自生していた本県在来の渋柿品種です。大玉でツヤのある外観や滑らかで舌触りの良い食感と甘みが特徴で、かほく市で生産される紋平柿は、「高松紋平柿」として10月下旬から11月下旬頃まで出荷されています。

高松紋平柿生産組合では令和元年からブランド力向上に取り組んでいます。金沢市中央卸売市場の初せり時には、最上位規格「プレミアム」（重さ300gの大玉、糖度16度以上、外観が優れた果実だけを厳選）に1箱10万円という高値が付き、毎年マスコミに大きく取り上げられています。

「高松紋平柿」の知名度が向上し、贈答用商品としての需要が高まった結果、令和4年には、石川県独自の優れた農林水産物「百万石の極み」に認定されました。これをきっかけとして、これまでの地元市場中心の販売に加え、東京への販路開拓が実現しました。

現在、県央農林ではJAとともに、お歳暮ギフト需要に対応するべく、貯蔵技術の導入を支援しています。

今後も関係機関と一体となって、産地の活性化に向けた取組を進めてまいります。



ギフト需要に応えるため栽培講習会で熱心に耳を傾ける生産者

南加賀農林総合事務所では、実需者から特色ある地元産フルーツを求める声や、水稻農家から米価下落の対策として補完的品目を導入したいとの相談があったことから、平成29年度から水稻育苗ハウスの遊休期間を活用したコンテナいちじく栽培を推進しています。

品種は、一般的に栽培されている「柵井ドーフィン」ではなく、小粒で糖度が高く、皮ごと食べられる希少品種「コナドリヤ」を採用し、試験栽培を開始しました。しかし、着果しない樹が多く見られたことから、生産者とともに先進地視察や現地試験を行うなど、着果安定に取り組んでいます。



(左) 柵井ドーフィン (右) コナドリヤ

また、令和元年の試験販売以降、道の駅等への出荷量が増えてきたことから、品質統一のために収穫適期表や選別基準表を作成しました。令和4年度からは、さらなる販路拡大と認知度向上に向けて共同出荷を開始しています。

令和5年には、生産者は小松市～川北町の計10戸に拡大し、地元洋菓子店等では「コナドリヤ」を使った商品も販売されるようになりました。

今後もコンテナいちじくが特産品となるよう支援していきます。



水稻育苗ハウスを活用したコンテナいちじく栽培

## 中央普及支援センターだより

### スマート農業技術を活用した大麦の省力栽培体系の実証

中央普及支援センターでは、農機メーカーや全農いしかわ、JAはくいなどと連携して、ロボットトラクターや人工衛星データなどのスマート農業技術を活用して大麦生産を行い、播種にかかる労働力の低減や投下肥料の最適化を図り、生産性や収益性の向上を目指す実証を行っています。

昨年10月に行われた播種作業の実証では、作業員2人が1台のトラクターで播種作業を行う慣行体系に対し、ロボットトラクターを活用すると、同作業人数・同作業時間で播種面積を倍増できることが明らかになりました。

実証経営体からは、「労働力が不足する中、スマート農業にとっても期待している」、「ボタン一つでトラクターが操作できる。若い人が農業に興味を持つきっかけになってほしい」と期待する声が聞かれています。

なお、本実証は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（課題番号：土5D2）」（事業主体：農研機構）の支援により実施しています。

今後は、人工衛星データなどを基に施肥量を最適化する「可変施肥」や収量コンバインによる「収量・品質データの見える化」にも取り組むこととしており、本実証を通じて、スマート農業技術を活用した大麦の栽培体系の確立を目指しています。



ロボットトラクターを活用した播種の様子

## ●いしかわGAP（認証基準2024）について

生産振興課

石川県では、農業経営のレベルアップや安定化を図る仕組みとして、GAP（Good Agricultural Practice: 直訳で「良い農業の実践」）の取組を推進しています。

GAPは、農業者自らが、農業生産活動を行う上で必要な法令や規則を遵守するとともに、農業生産活動に潜む様々なリスクを未然に防ぐため、農場管理のルールを定めて農場内で共有し、持続的に改善していく取組です。

### <県の取組>

石川県では、平成30年度に初心者でも取り組みやすい「いしかわGAP認証制度」を制定し、GAPの普及に努めてきました。これまで、認証を受けた農業者からは、「自分では気がつかない農作業事故の危険が認識できた」「農場を清潔に保つことで、作業を効率化できた」「県の認証を取得することで、取引先から評価を受けた」などの声をいただいています。

このたび、国ガイドラインの変更に伴い、新たに「いしかわGAP（認証基準2024）」を制定し、令和6年5月1日から運用を開始しました。これまでのいしかわGAPと同様に、新規の認証取得、旧制度からの移行に向けた相談等は農林総合事務所で受け付けています。

### ◇新たな認証基準について

従来の4区分の取組項目に新たに人権保護が追加されます

（現 行）食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理

（新基準）食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理、人権保護※

※人権保護：強制労働の禁止、労働力の適切な確保等

#### <視点と取組>

①安全な農産物の生産

②環境の保全

③農業者の安全確保

④農業者の人権保護

⑤適正な農場運営

#### <効果>

①農産物等の品質向上

栽培や出荷調整時の品質低下のリスク軽減等を行うことにより、結果として農産物の品質向上や安定化につながります。

②農業経営の改善

○整理整頓などによる無駄の排除  
○改善活動による経営の効率化  
○後継者の育成確保

③信頼性の向上

農場ルールの明確化や記録の徹底により、消費者等への的確な情報提供が可能になり、産地の評価や信頼性の向上につながります。

また、規範項目の取組内容を写真や図で分かりやすく示した取組マニュアルも作成しています。詳細は、県生産振興課 HP をご覧下さい。

【<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousan/oshirase/gap-corner.html>】



# ●農作物の高温対策について

生産振興課

令和5年8月の月平均気温が観測史上第1位を記録する高温少雨となり、本県農業の主力品目である水稲でも乳白粒や胴割粒が発生し、品質が低下しました。気象庁等の報告によれば、将来的に多くの地域で猛暑日や熱帯夜の日数が増加するものと予想され、本県においても夏季の高温が常態化し水稲の品質に影響を及ぼす恐れがあります。

令和5年産米の品質低下要因については、JAグループなどの関係機関とともに分析した結果、生育初期から後期にわたる適切な水管理や高温時の上乗せ追肥、土づくりなど、基本技術が徹底できなかった農家において品質低下が多い傾向であることが明らかになりました。

この結果を受け、うまい・きれい石川米づくり+1運動「6つの1か月対策」(下記参照)の徹底や、早生から晩生までの作期分散メリットを最大限に活かした品種構成に誘導していくことを関係機関と申し合わせ、令和6年産米の品質確保に向けて取り組むこととしました。

また、近年、普及が進むセンシング技術にも着目し、衛星画像を用いて水稲の生育を見える化することにより、追肥の要・不要や刈取適期を判断するなど、きめ細かな指導に活かしていきます。

さて、5月21日に、気象庁から発表された北陸地方の3か月予報では、6月から8月にかけて平均気温が平年より高い見込みです。農家の皆様におかれましては、米の品質確保のために基本技術を徹底いただくことはもちろんのこと、自身の熱中症の予防のため、日中の気温が高い時間帯を外しての作業や作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩を取ることなどに努めてください。

## うまい・きれい石川米づくり+1運動『6つの1か月対策』

I：刈取後**1か月以内**を目安とした土づくり(秋起こし)

II：育苗日数は、**1か月以内**(20～25日間)

III：中干し開始は、田植え**1か月後**

IV：中干し期間は、**1か月間**(コシヒカリ)

V：中干し後から出穂までは、**約1か月間**(コシヒカリ)の飽水管理

VI：出穂から刈取直前までの**1か月以上**は、

①乾かさない ②ずっと溜めない ③すぐ落とさない

### 《各1か月の目安》

【播種～田植え】	4/5以降～5/5
【中干し開始】	6/5
【中干し期間】	6/5～7/5
【中干し後水管理】	7/5～出穂まで
【出穂後水管理】	出穂～9/5以降

# いしかわの ホッとな農業人

金沢市 小林二伊奈さん（令和5年「北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事列表彰」北陸農政局長賞受賞）

小林二伊奈さんは、地域の女性農業者のリーダーとして、積極的に交流を行い、その取組は、女性農業者の活躍の場づくりと、地域における農村女性の社会参画に対する機運の醸成に繋がっている点が評価され、令和5年度北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事列表彰で北陸農政局長賞を受賞されました。

## ●活動の展開

小林さんは、金沢市農業センターの職員として勤務した後、専業農家に嫁いだことを機に就農しました。男性の補助作業を担当することが女性の役割というこれまでの慣習にとらわれることなく、積極的に作業分担の改善に取り組んできました。

また、従来の基幹部門である水稻・すいか・もち加工に加え、ブロッコリーや葉菜類、花き（フリージア等）を導入し、女性でも身体的な負担（重労働）を伴うことなく、かつ、作期を分散することで、労働ピークを作らない体制を構築し、性別に関係なく、周年で働きやすい環境を実現させています。

近年は、石川県農政審議会委員・石川県普及事業企画推進会議委員・金沢市農林業振興協議会委員といった重職に就いているほか、石川県仕事探しシェルパとして県内中学校・高等学校の生徒に対し、農業について職業講話を行っています。

また、金沢市内の女性農業者グループ「金沢農女（ノマジョ・カナザワ）」の設立に、発起人として尽力し、初代会長としてグループを牽引されました。さらに、隣県の農業女子との交流・マルシェへの出店・クラフト制作・勉強会を行うなど、女性農業者のリーダーとして活躍しています。

## ●今後の活動

小林さんの目標は、自分達が農業に従事する姿を見た若者に、‘楽しそうだな’‘充実していそうだな’と思ってもらうことであり、それを、‘いいな’‘やってみたい’に結び付けることで、農業を次世代に繋げることができると考えており、今後ますますのご活躍が期待されます。



ブロッコリー圃場にて



フリージア（エアリーフローラ）

みなさんは、石川県国際農業者交流協会をご存知ですか？当協会は「アグトレ※」に参加したOB、OGで構成され、石川県農業の発展及び農業者の国際交流の推進に寄与することを目的として、県や公益社団法人国際農業者交流協会と連携しながら農業青年の海外派遣や開発途上国等の海外農業研修生の受け入れ等を行っています。

※農業を目指す方が外国の農業者に学ぶことで、国内では得られないスキルや考え方を体得し、国際感覚を身に付けることができる研修

これまでに、石川県から120名を超える若者が海を渡り、令和4年には2名がオランダのナス農家で最先端の施設園芸を学び、帰国後に1名は石川県立大学大学院生としてイチゴの遺伝子について研究を行い、1名は農薬貿易会社に就職しました。また、令和5年には、1名がオーストラリアでライムの栽培技術などを学び、帰国後は金沢市内のふじむら農場のスタッフとして活躍しています。

当協会では、引き続き、石川県から海を渡りアグトレに参加する若者が増えるよう高校生や大学生等へ研修プログラムを紹介するなど、普及啓発に努めています。

さらには、アグトレに参加した若者が、経験し、学んだことを石川県の農業の発展に活かすことができるようサポートも行っています。

また、県内の会員のみならず、全国の会員とも情報交換や研修等を行い、交流を深めながら農業分野の課題解決に取り組んでいます。

私たちは一緒に当協会の活動に取り組んでくれる仲間を募集しています。アグトレに興味がある方や過去に参加された方で当協会への入会を希望される方は以下へご連絡ください。

みなさんからの連絡をお待ちしております！

## ○連絡先

石川県国際農業者交流協会事務局（いしかわ農業総合支援機構内）

T E L : 076-225-7621 メール : info@inz.or.jp

## ○必要事項

氏名（ふりがな）、生年月日、現住所、連絡先、勤務先、研修参加時期、研修参加国 など



令和4年オランダ研修ゼーラント州ナス農場にて



令和5年オーストラリア研修クイーンズランド州ライム農場にて

## 太陽熱土壤消毒によるフリージアの病害虫防除

農林総合研究センター 農業試験場

### 1. 背景・目的

土壤消毒は、化学物質による方法と熱などによる物理的な手法に大別されます。化学物質には主に土壤くん蒸剤が使われていますが、揮発性が高く刺激臭があるため、使用にあたっては、周辺への配慮が必要です。

一方、太陽熱土壤消毒は、地温を上げて土壤病害虫を死滅させる方法で、特別な装置や資材を必要としないことから、比較的取り組みやすい防除技術です。

ここでは、本県のフリージア栽培において問題となっている球根腐敗病とネダ二類に対する太陽熱土壤消毒の防除効果を検証したので紹介します。

### 2. 技術のポイント

太陽熱土壤消毒の手順は以下のとおりです（図1、2）。

①ほ場を耕起して畝立て、②十分に散水、③地表面を透明なビニール等で被覆し、ハウスを密閉。処理期間は3週間以上。

留意すべき点は、土壤消毒に効果的な地温40℃以上の期間を十分に確保するため、7月下旬～8月下旬頃の晴天が続く時期に実施することです。熱を伝わりやすくするために土壤を十分に湿らせることや、被覆資材を地面に密着させることも重要です。また、下層部の土壤は十分に消毒されていないので、被覆資材を除去した後に耕起は行わず、あらかじめ立てた畝の上に肥料を播いて栽培を開始します。

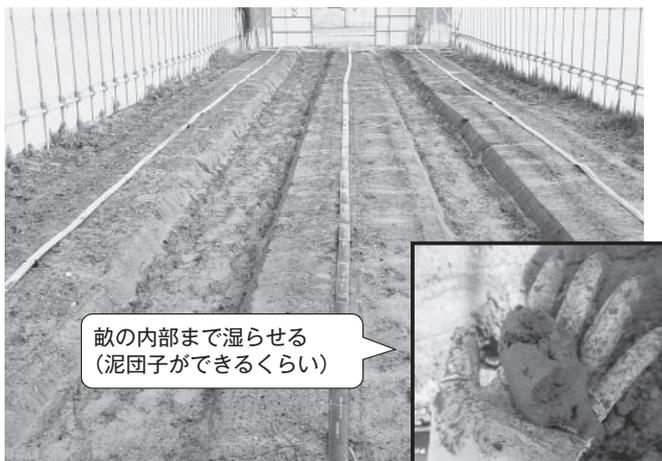


図1 被覆前の散水



図2 透明なビニール等で被覆

令和3年及び4年に農業試験場内のフリージア連作ハウスで実証試験を行いました。その結果、消毒後に栽培したフリージアの球根の病害虫被害度が、散水と被覆をしなかった無被覆区と比較して半分以下に低減されました（図3、4）。

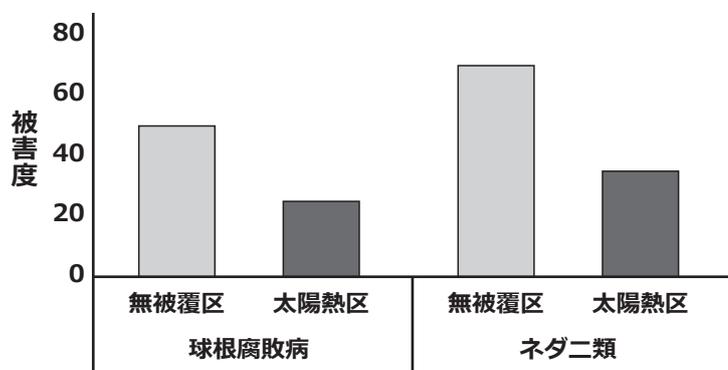


図3 栽培後の球根の病害虫被害度  
 ※無被覆区は散水・被覆なしでハウス密閉  
 ※消毒期間：令和4年8月2日～8月23日



図4 栽培後の球根の状態

### 3. 成果の活用と留意点

本技術はエアリーフローラ栽培マニュアルに掲載するなど普及を進めているところであり、すでに数軒の農家ほ場において実施されています。消毒後は土壌の再汚染に注意し、事前に消毒や選別を行った健全な球根を使用することが重要です。

また、太陽熱土壌消毒は、フリージアの球根腐敗病やネダニ類に限らず、他品目の土壌病害虫や雑草にも防除効果が期待できることがわかっていますので、ハウス栽培で土壌病害虫にお悩みの方は導入をご検討ください。

インターネットでデザインをお勉強!

オンラインスクール

# 生徒募集

お好きな時間に自分のライフスタイルでデザインが学べます。

デザインを  
仕事や副業に  
したい方



趣味で  
始めたい方



## モニター募集キャンペーン!

※キャンペーンは予告なく終了することがあります。予めご了承ください。

毎月受講料

通常  
価格

13,600円(税別)

7,900円(税別)

〈モニター期間6ヶ月〉 (税込14,960円)

(税込8,690円)

## 無料カウンセリング実施!

自分にグラフィックデザインは合ってるの?  
という疑問を「無料カウンセリング」で確かめられます



キテンスクール

運営

株式会社ウィット  
大阪府高槻市城北町1丁目14-17

お電話からもお問い  
合わせできます



072-668-3275

令和6年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第1号 (通巻124号)

ご意見・ご感想をお寄せください (HPからも受け付けています)

令和6年7月発行 発行者 石川県農林水産部農業経営戦略課



TEL.076-225-1613 FAX.076-225-1618

HPはこちら

メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousei/suisin/haretaraiine.html>